グリーンコープ 30周年 まつり

グリーンコープは今年設立30周年を迎えました。各単協では、30周年を盛大にお祝いしようと、工夫を凝らしたまつりや取り組みを開催しています。

それぞれの単協では、組合員が何ヵ月も前から検討を重ねてきました。グリーンコープをもっと好きになってもらい、新しい仲間を増やそうと、思いを込めて企画しました。

5月から7月に行われたまつりのようすと、4月においおいたで開催されたトークセッションについてお伝えします。

グリーンコープ生協 みやざき

グリーンコープ生協みやざき設立20周年記念

おいしいたべもの・やさしいくらしマルシェ

5月20日
フェニックス・シーガイア・リゾート
松泉宮グリーンガーデン

まつりは、約2千人が来場し、ステージでの演奏や販売・試食などで賑やかな1日になりました。ステージイベントの赤ちゃんハイハイ競争では、応援する家族や来場者の声が会場に響き渡りました。

会場内には、グリーンコープの生産者・メーカーの出店、福祉活動組合員基金（以下、100円基金）の助成団体のブース、理事会のブースが設けられました。ステージでは、地域の団体が合奏や踊りなどで会場を盛り上げ、理事会メンバーは都城支部委員会がつくった「みんなにとどけ～グリーンコープのうた～」を振りつきで歌いました。

理事長の鈴江信子さんは、「1年前からみやざきの20周年プロジェクトを立ち上げ、大きなまつりにしようと検討を続けてきました。助成団体にも参加してもらい、来場者に100円基金の活用について知ってもらう場になればと考えました。準備の1年間を通し運営に携った活動組合員は活動の楽しさを実感し、参加された地域の方々にとってはグリーンコープの美味しさやこだわりを実感していただくまつりになったと思います」と言います。

これまでの20年の歩みを大切に、さらに宮崎の地にグリーンコープを広げていきたいと、心を一つにできたまつりとなりました。

理事会メンバーが歌を披露し、大好評！

まつりも最高潮。来場者が楽しみに待っていた大抽選会は大いに盛り上がった

元気くんとじゃんけん大会

グリーンコープ生協 やまぐち生協

グリーンコープ30周年まつり

夢に向かってつながる心 ひろがる未来

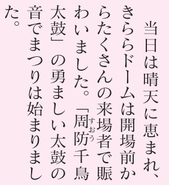
6月16日
山口きらら博記念公園 きららドーム

当日は晴天に恵まれ、きららドームは開場前からたくさんの来場者で賑わいました。「周防（すおう）千鳥太鼓」の勇ましい太鼓の音でまつりは始まりました。

食品メーカーが並ぶブースでは、試食・販売に行列ができました。産直青果市、組合員による喫茶コーナーやカレーコーナーも人気でした。来場者に産直びん牛乳の試飲をすすめ、美味しさをアピールしました。福祉用品の展示や体験ができるコーナーも設けました。

ステージでは、産直びん牛乳フォトコンテストの表彰や「もちまき」や「菓子まき」など、大人も子どもも楽しめるイベントを用意しました。ファイバーリサイクル市や地域の方によるフリーマーケットも賑わいました。

理事長の佐々木春代さんは、「半年前から準備を始めました。まつりプロジェクトを立ち上げ、各チームで案を出し、情報を共有しながら組み立ててきました。みなさんに楽しんでいただくために、知恵を絞りました。全部手作りなのが自慢です。たくさんの方に来ていただきたいので、告知にも力を入れ、地元テレビ局の情報番組に出演しアピールしました。学校や幼稚園にもポスターを貼らせていただき、チラシにもプレゼント引換券をつけました。まつりは新しい仲間を増やすチャンスなので、みんなで力を合わせて頑張りました」と笑顔で語りました。


食べものが並ぶブースは大盛況で、行列ができた

山口県ならではの「もちまき」ステージからまかれるもちに、大人も子ども大喜び

グリーンコープ生協 ふくおか 北九州地域

グリーンフェスタ

未来へつなぐ
～私たちのグリーンコープ～

6月9日
西日本総合展示場

北九州地域理事会では、1年前から準備を始め、「どんなブースをつくろうか、子ども連れの家族が飽きることなく楽しめるコーナーができないか」と地域ごとに出し物を考えました。また、グリーンコープで働くワーカーズにも、まつりに関わってもらい一緒に楽しみたいと考え、「カタログGREEN」を編集するワーカーズにも相談して初めての出店が実現しました。

当日は、産直びん牛乳の試飲をはじめ、産直生産者のこだわり野菜や取引メーカーの出店、ファイバーリサイクル市など69のブースが並び、大いに賑わいました。家族連れも多く、参加したお母さんは「子どもが遊べるコーナーだけでなく、試食やハンドマッサージなど十分楽しめました」と笑顔で語りました。

元気くんがくす玉を割って、賑やかにまつりがスタートした

各支部で趣向を凝らした企画も大人気。個包装のお菓子をフィルムとリボンでつなげて「キャンディレイ」を作るコーナーは、順番待ちができるほどの大盛況でした。

仲間を増やす取り組みでは、試食セットを準備し、テーブルでゆっくり試食してもらいながら説明している和やかな風景もありました。地域理事長の坂本寛子さんは、「若い地域委員も多く、企画も新しいアイデアがどんどん出て、準備段階からとても楽しく取り組めました。まつりは、グリーンコープの安心・安全な食べものをおすすめできる大事なチャンス。以前のまつりでは、早い時間に品切れになることもあったので、今回は最後まで商品を切らさずに来場者が楽しめるようにと考えました。昨日よりももっともっとグリーンコープが好きになってくれたらいいなと思います」と笑顔で語りました。

取り組んだみんなの思いが、いろいろなカタチになって参加者に伝わった楽しいまつりとなりました。

産直びん牛乳のこだわりを説明する組合員

グリーンコープ生協 ふくおか 福岡地域

30th anniversary 元気フェスタ

6月24日
エルガーラホール

取引メーカーや産直生産者が、グリーンコープ自慢の商品を揃えて出店。安心で新鮮な野菜の販売や、グリーンコープ自慢の商品の試食・販売をしました。組合員やワーカーズも出店し、グリーンコープの取り組みを紹介していました。開場前からたくさんの人が列を作り、会場は大賑わいで、2127人が来場しました。

ワーカーズによる「子どもパンケーキづくり」のコーナーや、組合員による「手づくりせっけんコーナー」は、子どもたちに大人気。キッズスペースでは子育てサポートワーカーズが、会場を回っているお母さんを待つ子どもたちが遊ぶ様子を、やさしく見守っていました。高齢者疑似体験コーナーでは、ゴーグルや手足におもりを付けてゲームに挑戦。体が自由に動かない高齢者や障がい者の不自由さを実感していました。ファイバーリサイクル市や民衆交易、家計相談、困りごと相談のコーナーなどもあり、会場を回れば、グリーンコープが全部分かるようになっていました。

組合員による「おかしすくい」コーナーは子どもたちに大人気

グリーンコープ生協 くまもと

グリーンコープ マルシェ

7月15日
びぷれす広場（熊日会館）

くまもとエリアには産直青果の生産者が多いことから、まつりの開催時期を夏野菜の最盛期に合わせました。往来が1日2万人といわれる熊本市最大の商店街にある会場では、青果コーナーを中心に設けました。来場者が産直青果を手に取って、生産者と料理方法や野菜の特長などを話す場面があちこちで見られました。青果コーナーを囲むように、メーカーなどのブースを配置。目玉焼きやハンバーグ、バナナなどの試食や産直びん牛乳などの試飲を、まつりの実行委員や組合員が各ブースに入り来場者にすすめました。

「まつりで仲間づくり！」を合言葉に、組合員、ワーカー、職員、生産者、メーカーの熱気あふれるまつりとなりました。

「でも今日は、たくさんの人で賑わう会場を見て、まつりができる喜びを改めて感じ、仲間づくりのはずみになりました」と語りました。

自慢の新鮮な夏野菜を前に、「どれもおいしいですよー」と声をかける生産者

風船とうちわを手に来場者を迎える組合員

グリーンコープ生協 おおいた

稲垣えみ子さんと語る「個人的脱原発計画」

4月10日　大分市
理事長　宇都宮陽子

東日本大震災とそれに続く原発事故を契機に電気を極力使わない生活を始めた元新聞記者の稲垣えみ子さんを迎え、組合員の代表とのトークセッションを開催しました。

家にある電化製品はラジオ・スマートフォン・パソコン・電灯だけ。洋服・家具・調理器具など最小限のものだけを揃えたコンパクトな暮らし。必要な食材しか買わず、保存食や旬のものを中心としたシンプルな食生活を送っている稲垣さん。「所有することを止めたことで、暮らしは自由になった」と言われます。目からウロコが落ちるような稲垣さんのお話を通し、改めてたくさんのことを考えました。

私たちの日々の暮らしの積み重ねが今の社会を形づくっています。私たち一人ひとりが暮らしの中で行動すること、そのつながりを大きな輪にしていくことで、社会は変えていけると考えます。

稲垣えみ子さん

稲垣えみ子トークセッション

子どもたちの棟のために No.121

『地域エネルギーについて①』

地域エネルギーとは、地域で得られる自然エネルギーのことです。風力、水力、太陽光、地熱などの再生可能な世界中どこにでもある自然エネルギーのことです。

*「日本の自然エネルギー投資額を1とすると、イタリアは4、アメリカは10、ドイツは13、中国は20投資しています」もっと、日本も自然エネルギーに力を入れるべきではないでしょうか。

グリーンコープでは、2013年9月、福岡県糸島市の神在太陽光発電所から自然エネルギーによる発電所作りがスタートしました。その後、5年間で太陽光発電所が10ヵ所、そして、熊本県小国町に馬洗瀬（もうらせ）小水力発電所と杖立温泉熱バイナリー発電所が完成しました。これからも地域でつくる電気を組合員が使えるようにすすめていきます。

電気も地元でつくった安心・安全なものが1番です。どうすれば再生可能な地域エネルギーを持続的に活用できるのか、みんなで考えていきましょう。

※出典先：飯田哲也氏「1億3000万人の自然エネルギー」より

グリーンコープ連合会組織委員会

一般社団法人グリーン・市民電力から ひろがれ！私たちの発電所

グリーンコープ・グリーン電力出資金
11,641人　1,094,005,000円
（2018年8月11日現在）

「原発の電気ではなく、自然エネルギーでつくった電気を使いたい」という願いをかなえるために、グリーンコープ・グリーン電力出資金に協力しましょう

2018年6月の売電量

神在太陽光発電所売電量 125,850kWh（定格出力1,057kW(280世帯相当)）	若宮物流センター太陽光発電所売電量 4,600kWh（定格出力47kW(13世帯相当)）
平池水上太陽光発電所売電量 154,328kWh（定格出力1,260kW(380世帯相当)）	広島物流センター太陽光発電所売電量 4,832kWh（定格出力47kW(13世帯相当)）
深年太陽光発電所売電量 155,999kWh（定格出力1,550kW(430世帯相当)）	グリーンコープやまぐち生協西部地域本部太陽光発電所売電量 7,074kWh（定格出力54kW(15世帯相当)）